

『一橋商学論叢』投稿規定

2006年4月2日, 2008年3月11日,

2010年5月26日修正

1. はじめに

『一橋商学論叢』は、一橋商学会が編集する学術雑誌です。本誌は長年の伝統をもつ『一橋論叢』の基本的なスタンスを継承し、商学分野のアカデミックな研究業績を公表することを目的としています。一橋商学会は、①一橋大学大学院商学研究科の専任教員、②博士後期課程在学学生、③博士後期課程出身者のいずれかであり、かつ、入会申し込みを行なった者から構成されています。投稿資格は、一橋商学会の会員に限られます。

2. 雑誌への投稿について

(1) 出版は年2回・投稿は随時受付

『一橋商学論叢』は、5月号と11月号の2冊を毎年発行します。完成原稿の締切は5月号に関しては2月10日午後5時、11月号に関しては8月5日午後5時です。

出版は年に2回ですが、投稿は随時受付しております。(レフェリー・プロセスを経て採否の決定される投稿論文に関しては、採用が決まった後で提出される完成原稿の締切が上記のようになっていきますので、注意してください。採否が決まっていない投稿論文を2月10日に提出しても、5月号に掲載されることは通常はありません。)

なお、最初原稿締切に間に合っても、初校・再校等の締切に間に合わなかった場合、次号以降の掲載になりますので、ご注意ください。

(2) シニア・エディタ制度

博士後期課程在学学生の投稿に対しては2名のレフェリーによる審査を行ないます。以下ではこれを投稿論文と呼びます。商学研究科の教員(ジュニア・フェローを含む)については本人からの希望が提出された場合に限って、レフェリーによる審査を行ないます。また博士後期課程出身で現在商学研究科に属していない者の投稿についても、原則として博士後期課程在学学生と同様にレフェリーによる審査を経るものとします。

一橋商学会の選出する5名程度のシニア・エディタ(以下、SE)が、それぞれの専門にそって割り当てられた投稿論文のレフェリーを本学内外から選びます。SEは、レフェリーの意見に基づいて修正方針を出し、また最終的な採否の意思決定を行ないます。

SEは当面、①経営、②会計、③市場、④金融、⑤イノベーションの5つの専門分野から1名ずつ選ばれます。

(3) 査読期間等

SEはレフェリー・プロセスが迅速に行なわれるように管理を行ない、投稿受付から1ヶ月以内に最初のフィードバックを行なえるように最大限の努力を行ないます。

(4) 投稿論文提出先

投稿論文の提出先は、白桃書房に直接、電子メールの添付書類で提出してください。メールアドレスは、h-acm@hakutou.co.jpです。

(5) 論説と研究ノート

当面の間、2種類原稿を受け付け、公表していきます。①論説と②研究ノートです。論説は400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、研究ノートは同25枚以内です。(ただし、本学商学研究科教員(ジュニア・フェローを含む)に関しては同130枚までを掲載可能とします。また連続掲載(その(1)、その(2)等)も可能とします。)

(6) 著作権

掲載された論文の著作権は一橋大学長に帰属します。『一橋商学論叢』に掲載された論文を執筆者が他の出版物に転用する場合には、予め一橋商学会を経由して一橋大学長の了承を得なければなりません(実務的には、副編集長にメール等で許可を得てください)。また転用した場合、出典を明記して下さい。

なお、後日、『一橋商学論叢』が電子ジャーナル化等を行なう場合の電子データへの変換等については、本誌への投稿の時点で合意されているものと見なします。

3. 投稿論文の要件について

投稿論文に関しては、レフェリー・プロセスが行なわれるため、以下の要件を満たしている必要があります。

(1) 言語:

論文は日本語で書かれているものに限りません。

(2) 未公開・オリジナル:

投稿論文は商学に関連するテーマのオリジナル論文であり、未公開のものに限りません。また、他の雑誌に同時に投稿されていないことに注意してください。なお、投稿をもって、他の雑誌等への多重投稿なきことの申請に代えるものとします。また、いったん不採用になった論文を大幅な修正をすることなく、再度投稿することはできません。

(3) 一橋商学会会員：

投稿者は一橋商学会の会員に限られます。共著論文の場合には、会員がファースト・オーサーであることが条件になります。

(4) 論文に含まれる情報：

論文原稿は原則としてPDFファイルにて、下記メール・アドレスに添付書類として送付してください。PDFファイル以外で提出された場合、事務作業上若干の遅れが生じる可能性があります。

また、論文の表紙には次の情報が盛り込まれているように注意してください。なお、実際の審査プロセスでは、表紙の情報のうち、投稿者個人を特定できるものを消去した上でレフェリーに論文が送付されます。

◎原稿送付先：h-acm@hakutou.co.jp

①日本語題名

②英文題名

③所属・連絡先の情報

- (イ) 執筆者氏名：漢字表記&ローマ字表記
- (ロ) 学生の場合=学年・指導教員名、既に職を得ている者の場合=所属機関・部署・職位
- (ハ) 連絡先住所（含む郵便番号）
- (ニ) 連絡先電話番号
- (ホ) 電子メール・アドレス
- (ヘ) レフェリープロセスの専門分野：経営・会計・市場・金融・イノベーションの内どれか1つ

④要旨等

- (イ) 邦文要旨（200字以内、文字数を明記してください）
- (ロ) 英文要旨（200words以内、単語数を明記してください）
- (ハ) 論文全体の文字数も同様にカウントし、明記しておいてください

⑤キーワード

- (イ) 邦文キーワード（5つまで）
- (ロ) 英文キーワード（5つまで）

⑥申請分野

レフェリー・プロセスを受ける専門分野を投稿者が指定してください。SEが選出されている5つの専門分野（経営・会計・市場・金融・イノベーション）のいずれかを選んでください。

(5) 長さ

①論説：400字詰めで上限50枚

②研究ノート：400字詰めで上限25枚

・なお、図表はB5判1ページの半分を占める場合は800字、4分の1ページの場合は400字と計算してください。注および参考文献は文字数を

カウントした上で400で割り、最後に0.7をかけて総枚数に加えてください。

(6) 特殊な文字・記号・数式など：

特殊な文字や記号、数式などを使用する場合には、書体（ゴシック、イタリックなど）を含め、正確に指定してください。また、特別な割付を希望される場合には、行間等について正確な指定をお願いします。

(7) 重要な注意事項

①著者名が論文を読み進むうちに自明になってしまうような書き方をしないでください（たとえば、「筆者はこの2年間にわたって、■■の研究に従事してきており、その成果として○○と主張してきた（人名、2005）」など）。

②謝辞は掲載が決まってから追加することとし、投稿時点ではつけないでください。

(8) 掲載が決まった後

①最終稿の電子ファイルを提出してください（ファイル形式はMSワード形式ないしテキストデータ）。

②校正は基本的に2回ありますが、掲載が決まった後に提出される原稿が基本的には完成稿であるように気をつけてください。

4. 一橋商学会

『一橋商学論叢』への投稿資格は一橋商学会（Hitotsubashi Academy of Commerce and Management, H-ACM）の会員であることです。入会希望者は所定の申込書に推薦者1名の署名捺印の上、商学研究室に申し込んでください。ただし商学研究科教員はご自分の署名捺印のみで結構です。

年会費は下記の通りです。

①一橋大学大学院商学研究科・専任教員：

10000円/年

②同・大学院博士後期課程在学学生・ジュニアフェロー：

5000円/年

③同・出身者：

8000円/年

なお、ご住所・ご所属等の変更の際には、以下までご連絡ください。

◎変更届先：h-acm-jimu@hakutou.co.jp

以上